

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	岩手県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	宮古市立磯鶏小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	0	12	18
児童数	68	71	66	65	56	64	0	390	

研究の概要

1. 研究主題

基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の工夫

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年計算・漢字ドリル(検定テスト)及び算数科の少人数指導を行う。(基礎・基本であること,どの子も容易に取り組める内容であること,また,13年度実施した算数科学力検査結果から,本校児童の学力が不十分であることが分かり,学力向上対策を立てる必要から。)</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の工夫 研究の見通し(仮説) 計算や漢字の練習に継続的に取り組ませることにより速く正確に計算する力,正しく漢字を読み,書く力が高まるであろう。 算数科の学習指導において学級を2分割した少人数のグループや理解と習熟の程度に応じた学習グループを編成し,評価規準を明確にしたきめ細かな指導を行うことにより児童の学習意欲が高まり,基礎的・基本的内容の定着度合いが高まるであろう。 研究内容・方法 「発展的な学習や補充的な学習など,個に応じた指導のための教材開発」について ア 個に応じた自学自習のための計算・漢字ドリル問題の作成と補充指導の充実 イ 計算・漢字検定の実施・個々の実態(到達度)を把握するための計算カルテ,漢字カルテの作成 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫・改善」及び「児童生徒の学力の評価を生かした指導改善」について ・ 算数科少人数指導体制の整備・算数科評価規準・判断規準の作成とそれを生かした授業改善</p>
--------	--

平成 15 年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の工夫 研究の見通し（仮説） 算数科の少人数指導において，理解や習熟の程度に応じた学習グループの編成とそれに即した学習指導方法の工夫を行えば，児童の学習意欲が高まり，基礎的・基本的内容の定着度合いが高まるであろう。</p> <p>研究内容・方法 内容 ア 算数科少人数指導の工夫 イ 算数科評価規準・判断基準を生かした授業改善 方法 文献研究，授業研究</p>
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 基礎・基本の確実な定着を図る学習指導の工夫 研究の見通し（仮説） 算数科の学習指導において，以下のような手立てをとるならば，児童の学習意欲が高まり，基礎的・基本的内容の確実な定着がなされるであろう。</p> <p>ア 基本的指導過程の工夫 ・ 単元及び単位時間の基本的学習指導過程 イ 指導方法・指導体制の工夫 ・ 個に応じた指導方法，体制（TT，少人数指導） ウ 評価の工夫 ・ 評価規準を生かした適切な評価</p> <p>研究内容・方法 内容 ア 基本的指導過程の在り方 イ 個に応じた指導方法・指導体制の在り方 ウ 評価規準を生かした適切な評価の在り方 方法 文献研究，授業研究</p>
----------------	---

（ 3 ） 研究推進体制

<p>・ 学力向上推進委員会（メンバー……校長，教頭，学力向上フロンティア推進担当，教務主任，研究主任，学年主任）</p>

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

成果

- 1 教研式標準学力検査（CRT）を実施した結果，次の領域等において通過率等の向上が見られた。（第1学年は比較データなし）

《算数》

領域別にみて伸びが見られたところ

- 【第2学年】量と測定（全国比102）
- 【第3学年】量と測定（全国比104），数量関係（全国比109）
- 【第4学年】図形（通過率0.8上昇），数量関係（通過率0.9上昇，全国比104）
- 【第5学年】図形（全国比102）
- 【第6学年】数量関係（通過率3.5上昇）

観点別に見て伸びが見られたところ

- 【第2学年】関心・意欲・態度（5.5上昇）
表現・処理（3.3上昇）
- 【第3学年】関心・意欲・態度（6.3上昇），数学的思考方（5.1上昇）
知識・理解（4.9上昇）
- 【第4学年】知識・理解（7.8上昇）
- 【第6学年】関心・意欲・態度（8.0上昇），知識・理解（0.5上昇）

《国語》

言語事項領域内容「漢字を正しく覚えて使うこと」について伸びが見られた学年

- 【第2学年】0.5ポイント上昇（全国比100）
- 【第3学年】0.3ポイント上昇（全国比104）
- 【第4学年】0.1ポイント上昇（全国比101）
- 【第5学年】9.3ポイント上昇（全国比105）

- 2, 「計算・漢字検定」における到達率が向上した。（平成16年2月2日現在）

《計算検定》

- 【第1学年】94.3%
- 【第2学年】81.1%
- 【第3学年】87.8%
- 【第4学年】83.3%
- 【第5学年】88.5%
- 【第6学年】95.5%

《漢字検定》

- 【第1学年】85.0%
- 【第2学年】80.0%
- 【第3学年】97.0%
- 【第4学年】79.9%
- 【第5学年】84.6%
- 【第6学年】84.5%

2. 今後の課題

- (1) 算数科の指導方法等について共通理解が十分でない点があり、十分な指導効果が上がっていない面が見られる。基本的な指導過程を始め、TT 指導や少人数導等個に応じた指導方法や適切な評価の在り方等、今後採るべき方法についての十分な検討がなされなければならない。
- (2) 「計算・漢字検定」等、学力向上を支える基礎的・基本的事項の中の技能の向上を目的とした学習指導(ドリル, 家庭学習含む)に努めてきたが、中・上位群の児童にはおおむね指導の成果が上がっているが、下位群の児童には不十分であった。どの児童にも有効な、より効果的な方法について究明していく必要がある。

学力等把握のための学校としての取り組み

- ・ 教研式標準学力検査(CRT)の実施(年1回)
(目的) 学力把握(実施内容) 国語, 算数(時期) 12月
- ・ 計算・漢字一斉テスト(目的) 学力把握(実施内容) 計算・漢字(時期) 長期休業明け(2・3学期始めの8月及び1月下旬)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年	6月24日(火)	第1回学力向上フロンティアスクール研究推進会議 時間: 10:40~12:10 場所: 本校 テーマ: 学力向上フロンティアスクールとしての取組及び算数科少人数指導について 対象: 地区学力向上フロンティアスクール代表者等, 本校PTA代表
	12月10日(水)	第2回学力向上フロンティアスクール研究推進会議 時間: 15:20~16:50 場所: 本校 テーマ: 学力向上フロンティアスクールとしての本年度の取組状況について 対象: 地区学力向上フロンティアスクール代表者 本校PTA代表
平成16年	1月29日(木)	第3回学力向上フロンティアスクール研究推進会議 時間: 15:20~16:50 場所: 本校 テーマ: 学力向上フロンティアスクールとしての本年度の取組状況及び算数科少人数授業について(授業参観及び研究会) 対象: 地区学力向上フロンティアスクール代表者, 本校PTA代表, 担当指導主事
	2月12日(木)	第4回学力向上フロンティアスクール研究推進会議 時間: 14:10~16:50 場所: 本校 テーマ: 学力向上フロンティアスクールとしての本年度の取組の反省及び算数科少人数授について(授業参観及び研究会) 対象: 地区学力向上フロンティアスクール代表者 本校PTA代表

~~~~~  
【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校

【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上

【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他

【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無